

宿縁

三月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七-三七二-〇二九二
FAX 〇四七-三七二-〇二六一

この世に生まれた
用事は何か？



大分県の田畑正久医師は「医療と仏教の協力関係」を提唱し、念仏者として幅広く活躍されています。有難いことに先生は毎月メールで法話を送信してくださいます。今月は、「生かされていることで果たす、私の役割、使命、仕事は何か。」という話の中で、詩人杉山平一（一九一四〜二〇二二）の次の詩を紹介されていました。

「生」
ものをとりに部屋へ入って

何をとりにきたか忘れてもどることがある
もどる途中でハタと
思い出すことがあるが
そのときはすばらしい

身体がさきはこの世へ出てきてしまったのである
その用事は何であったか
いつの日か思い当るときのある人は
幸福である

思い出せぬまま
僕はすくすくあの世へもどる

詩人杉山平一は九十八歳という長寿でしたが、「普段は見過ごされて埋もれている日常の一瞬やおかしみを発見し、そこに詩として光を当てると、自ずとユーモアやウィットがにじみ出る」と言っています。

人間の身体的成長は二十歳くらいで止まるといいますが、心の成長は際限がないと言われます。だがなかなか思うようにいきません。物忘れ、遅くなる歩行、環境の変化についていけない、残された寿命がない等々から焦り、怒りっぽくなります。肩の力を抜いて生きよと言われてもついつい力みが苦しみをもたらせます。

そんなとき、この詩は気持ちを楽しませてくれます。

くれます。

仏教では「自我の邪見」が苦しみに繋がるのだと教えますが、握ったものを放せばいいのに放せない自分が存在するのです。人生の用事は、自我を確立することではなく、自らがはからう小さな殻を出て大きな世界を生きよ。役に立つとか、立たないとか、そんな小さな殻を超えて大きな真実の世界に目覚めて生きよということなのです。そこを親鸞聖人は、「如来の本願に生きる身となれ」とお示しになりました。即ち人生に生まれた用事は、「それほどの業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願」（歎異抄）に遇うことなのです。その本願に乗ずる、つまりすべてを任せるとき、「自我の邪見」が死ぬということですが、

仏法を聴聞して分かっているつもりでも、私たちは知らず知らずに「世間を相手の生活」なのか、「仏さまを相手の生活」なのかというところで、いつのまにか世間を相手の生活になっているということでしょうか。先程の詩の情景の中には、いつの間にか頑なに固まっている自我の世界、いつも周りをきよるきよる見て、ふりまわされていくということの現実を見せられる思いです。

杉山平一の詩をもう一つ取り上げてみます。

「わからない」

お父さんは

お母さんに怒鳴りました

こんなこともわからないのか

お母さんは兄さんを叱りました

どうしてわからないの

お兄さんは妹につつかかりました
お前はバカだな

妹は犬の頭をなでて
よしよしといいました

犬の名はジョンといいます

日々を過ごすなかでどんなに耳をふさいでもいろんな情報が目に飛び込んできます。その都度自分の対処法がわからなくなるころがありますね。

この詩の情景は、家族への苛立ちが、攻撃が連鎖していきます。では妹は飼犬に八つ当たりをするかと思えば、いじめません。反対に犬を可愛がります。妹は攻撃の連鎖を断ち切ったのです。

なにかしらこの妹の行動が肩の力を抜いてくれました。
対処法を思う中で、いつしか自分の位置を賢振りあるいは善人ぶった振る舞いをしなければならぬという外向きの世界があったような気がします。

賢者や善人らしく努力や精進している姿を外に表してはなりません。なぜなら、人はその心の内に偽りを抱えているのですから。仏の教えとは、あくまでも内省だと聞かされています。いかに外面を取り繕うとも、内面には偽物を抱えているのがわれわれの本当の姿です。だから立派な人ぶった姿を見せるものではないと、この詩は教えてくれているように思います。

【寺灯雑記】

○東京教区仏壮研修会参加報告と感想

―越田修二郎―

2/19〜20

会場||きぬ川ホテル三日月(1泊2日)

テーマ||「仏教壮年会のめざすもの」

参加者||370余名(当寺仏壮より4名)

講師の松月博宣師は、まず前段として浄土真宗のみ教えを、安心から後生、法とは何か、真とは何か、浄土とは、煩惱と清浄の関係、光明・涅槃のすがたを、順を追って説かれ、私たちは死後の世界をもとにして現世を知り、生の意味を見つめて心豊かに生きるということ、利他の行為を中心として話をされました。

壮年会の一員だからというのではなく、門徒の一員としてどう社会貢献をしていけばいいかということ、僧侶としての自身についても言及されました。自分は63歳で住職をスパッと譲り、一切、現住職には口を出しておりません。法事に、家族の揃わない門徒の家が多くあるが、お寺の法座に住職家族が聴聞していない現状も許されません。若者が宗教離れしたとよく言われますが、決して宗教離れしたわけではなく、寺が多様な人々に具体的なモデルを提供してこなかったと考えます。十数年、青少年を対象としたキッズサンガを担当してきていますが、あらたに代理店によりスクールアーナンドを企画、SNS等で発信し大きな反響を得ており、3/4・3/5高岡で学者・芸術家・僧侶を交えた学びの場を開催いたしますが盛況であります。その代理店の社長はもと親鸞会(別の宗教団体)に居られた方でしたが会に

疑問をもち、梯實圓和上の本を読んでこれだと思えば本願寺にいられた新しい視点を持つた方ですと、現在の伝道活動の紹介がありました。

結局「仏教壮年会のめざすもの」というタイトルにある説明はなく、門徒個人としての姿と、教団としての伝道教化活動について話されました。本願寺教団もこれまで基幹運動をたちあげ、門信徒会運動・壮年会運動といろいろと改革に取り組んできましたが、もはや「会」としての役割が終わったという事かもしれません。既成教団はどこも、現在のお寺を中心としたフランチャイズ制では、今後の財政が維持できない状況にあります。教団も、直接個人に伝道するという現代の新興宗教に学び、情報システム社会に乗り出したものと思われました。遠い将来かもわかりませんが、若者がSNSの会合に物足りなくなつた時、接点としての地域の寺に顔を出したとしたり、その時寺は何が必要なのでしょう。

壮年会は、お寺の中でも求法の中心としての存在であつてほしいと思いますし、お寺さんも、風景の一部とならぬよう護持活動のための行事ばかりでなく、法の事としての法事を行い聞法の道場としての役割を担い続けてほしいものです。

○千葉組連研履修者の研修会に参加

2/26

会場||築地本願寺

テーマ||「門徒としての疑問」

講師||渡邊恒行師

参加者|| (当寺より6名)

七期までの連研履修者を対象に、講師から「歎異抄における唯円の嘆き」という問題提起をもとに、班別にわかれて話し合い法座の形式で意見交換をしました。悪人とは、念仏とは、浄土とは、について各々考えるところを述べ合いました。

○東京教区仏教婦人会研修会に参加

3/1

会場||築地本願寺

講師||利井唯明師(行信教校校長)

講師||「如来大悲の親心」

参加者||凡そ700名(当寺より17名)

行信教校で「今あなたに伝えたいことば」の最優勝賞に選ばれた作品「あなたよりあなたを思うかたがいる」を紹介しながら、如来さまのご本願とは、子を思う親心が先に発せられていることの深い味わいをお聞かせいただきました。

【彼岸会法要(宿縁廟法要併修)修行】

*日時:三月二十日(春分の日)

・宿縁廟法要(廟前) 一時

「讚仏偈」 焼香

納骨される方、既に納骨されている方は十二時半までにご参詣下さい。

・彼岸会法要(本堂) 一時半

「仏説阿弥陀經」

講話 菅原伸郎氏(元朝日新聞編集長)

講話 「カルトと迷信」

オウム真理教サリン事件から二十二年、その時記者として取材にあたつた経緯から釈尊・親鸞聖人がカルトと迷信をどう否定したかをお話されます。

【法座・行事案内】

○高僧和讃に学ぶ(源信讚)

三月二十五日(土) 三時

○花まつり(釈尊降誕会)

四月二日(日) 十時半

子どもたちを中心にみんなで祝いするお釈迦さまの誕生日です。

市内を中心に活動されているキッズダンス・マーブルチョコさんをお呼びします。

「恋ダンス」一緒に踊りましょう。

仏さまのお話、ゲーム、餅つきなど。

○婦人会・壮年会合同法座

四月二日(日) 一時半

テーマ 「承元の法難記録から学ぶ」

○入門式

四月十六日(日) 十時

新たに中原寺とご縁を結ばれる方に受けていただく入門の式です。受式される方は門徒式章と経本を差し上げます。お申し出ください。

○常例法座

四月十六日(日) 一時

講師 熊原博文師(戸田市正善寺)

○門信徒会役員会

四月十六日(日) 三時半

【三月の掲示板のことば】

出会いは人の心を広くし 別れは人の心を深くする

※お詫び(門信徒会役員会から)

平素は温かいご理解とご協力をいただき有り難うございます。

先月、宿縁二月号に同封しました二十八年度門信徒会決算報告書の計算に誤りがありましたので改めてご報告致します。